



第158号
令和元年12月2日
能代市教育委員会
学校教育課

創刊
昭和42年10月10日
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

随想



教師の思いが伝統に

竹生小学校長

加藤 友久

竹生小学校の閉校に関わって、沿革史に目を通す機会があった。そこには、環境整備に力を注ぎ、花を育てる活動でいくつもの賞を受賞してきたことが記されていた。本校の子どもたちは「やさしく、思いやりがあり、全校児童がみんな仲良し」と保護者に話すと「自分たちの代もそうであった。竹生の伝統だよ」というのだ。閉校式の機会に、大先輩の元校長柴田郁先生から「環境を整備し、花を育てる活動を通して優しい子どもを育てる。これは竹生の伝統であり、私たちも力を注いできたことですよ」と教えていただいた。教師の熱い思いが伝統を築いてきたのだ。ふと、東雲中学校の全校応援を思い出した。平成十二年、学校に

応援団の力で元気を吹き込もうと、当時、応援団担当であった故芳賀高徳先生を中心に、全校応援に力を入れた。応援団を中心に、全校生徒が応援に目覚め、大きな声を出せることは誇りになった。その後、体を後ろに大きく反りながら声を出す「エビ反り」が加わり、バージョンアップした。昨年、東雲中学校の総合学習発表会で、何年かぶりに更に進化した地響きのような全校応援を見せていただいた時には、感動し体が震えた。学習スタイルや生徒指導など学校によって得意分野は違えども、教師の思いが伝統になり、その学校の強みへと変わっていく。統廃合が進む今、どんな伝統が築かれていくのか楽しみである。

随想



「教師」という存在

浅内小学校長

五代儀 敏正

学校の大切な役割、それは生の人間と人間の付き合い、ふれあい体験ではないだろうか。IT時代になると言われている時代だからこそ、生の人間同士のふれあい体験が人間としての成長に必須であると強く思う。

子どもたちが一日の生活の中で、最も長い時間向き合っている大人は誰か、それは親と教師であろう。学校においては教師が子どもにとって最大の教育環境となっている。

教師は子どもや親から見られている存在と認識しておきたい。子どもをよく見て指導しているつもりが、子どもから見られて評価されている存在にもなっているのがある。どのような会話が交わされ心の交流が図られているか、子どもとの接点が勝負となる。「どうしてあんなに楽しそう、幸せそうにしているのか」「大人になるのが楽しみ」と思われるような生き方を示しているか、毎日、明るく楽しく、生き生きと生活しているだろうか、振り返ってみたい。

読むことの風景



「いつも混んでいる本の貸し出し」
令和元年11月14日 向能代小学校

「こんなに指導しているのに、どうしてうまくいかないのだろう」と悩む時がある。指導技術より心を込めることが大切であると思う。子どもの心に火を付けることが重要なのである。そのためには、教師自身が自ら燃えることである。子どものみならず、教師、さらには親の心にも火が付けば、どんな問題もきつと乗り越えていけるだろうと信じている。
……「情」も大事なんだよなあ。